

# 平成二十五年度全国学校体育実技指導者講習会

## ■実技内容のポイント■

### 幼稚園・保育園の部

日時…7月26(金)

会場…東京都千代田区立富

士見小学校 体育館

幼・保から小への円滑な接続を得るために、からの動かし方の根本と遊びが運動として形づくられていく過程に注目した講習会を実施した。

①《幼児・児童期の運動遊び及びコーディネーショントレーニング》

幼児の遊びを見ると、こたぼを交し遊ぶというより互いに感じ合いながら遊ぶ姿が多い。講座では、この幼児の遊び方を、即興的な運動遊びとして体験した。そして、そこに表現されるお互いの動きに、幼児の楽しむ遊びの自由さ・創造の喜びを体験した。

講師…東京女子体育大学教授 秋山エリカ先生

②《幼・保・小連携による子どもの健やかな身体と体力の向上》

保育内容「健康」、教科「体育」のねらいを成長の視点から解説。実技では、グループで考え出した遊び発見までの経過が発表され、遊びは遊び手の面白さ追求に生じる無限のものであることを認識。子どもたちの限らない遊びへの理解を深める機会となった。

講師…東京福祉専門学校 講師 戸田大樹先生

③《ボールあそびで運動の質と楽しさを広げよう》

ボール遊びに魅了される幼児・児童の反応を想起しながら、運動能力の発達を年齢別に解説。そして、ボールを使った一人あそびから集団遊びへ展開していく遊びが紹介された。

講師…創価大学児童教育学科教授 井上アヤ子先生

④《日常にみられるあそびから「跳び箱運動」への導き》

幼児たちの日常遊びに見られる「走る、跳ぶ、跳び越す、着地する」様子に注目し、それらの多様な展開が紹介された。そして、各々の動きにおける支援（運動補助）のタイミングを学んだ。

飯田女子短期大学元教授 田中美智子先生

⑤《森とあそびの関わり》

ピンポン玉、ハンカチ、ロープ、シート等を利用した遊びを体験。遊びで身に付けた技術を活かし、園庭の木陰づくりや保育室での遊び環境づくりなど、手軽に誰もが屋根のある空間を作れることを学んだ。

講師…東洋大学非常勤講師 田代浩二先生

### ◆講習会の様子◆



### 小学校の部

日時…7月29日(月)

会場…東京都千代田区立

昌平小学校



講師…桐蔭横浜大学教授 松本格之祐先生

①マット運動を中心とした実技講習会であった。まずマット運動につながるやさしい運動を仲間づくりを兼ねて楽しく実施。ゆりかごから開脚前転を二人一組で行った。また、マットを2枚にたたんで背支持倒立から開脚をぎりぎりまで抑えた開脚前転。さらに、後転の練習。両手ひらの支持を確かに行うことを学習した後、『イチ、ニツ、サアイン』のサインのタイミングにおしりを後方に落として実施。最後は、前転してボールキャッチを全員できるようにしてくれた。

②ゲーム領域で『セストボール』『アルティメット』を講習していただいた。その歴史から始まり、運動が充実すると休憩を兼ねながら合間合間に、映像を缺なだわかりやすいルールの取り入れ方、そして、試しのゲーム、作戦を2点に絞ってグループ毎に考えさせた。ポイントは、『ノーマーク』『ゴール近く』考えた後は練習させて試合を実施。アルティメットでは、その導入の理由から始め、投げ方取り方を練習した後ゲームを盛り上がった行った。疲れを忘れてゲーム②夢中になった講習である。



講師…東京学芸大学  
准教授 鈴木 聡先生

7月30日(火)  
③体づくり運動領域では、児童に対するストレッチのポイント指導があった。次に、長なわを二人組、四人組でぐり抜けたり、心を合わせて一回旋一跳躍を全組できるようにした。心の盛り上がり背景として、二人組で背中合わせになり立ち上がる運動を、できないことから学び始めた。できない児童の理由を基に、指導の仕方を実践した。さらに、ケンステップによるリズム跳びをアクセントをつけて練習。結びは、二人跳びと8人跳びを創作した。達成の喜びを味わえた。



講師…国士舘大学教授  
細越 淳二先生

④ボール運動『ハンドボール』では、ボールを使った様々なコーディネーション運動を行った。一人から二人、三人組へとボールの扱いも仲間と息を合わせて実施しないとできない運動が用意されていた。講師のこの指導があつて、ただ真似るだけでは無い練習がためになった。『左足、右足、左足、パス左足着地』でシート練習。なぜ両足でないかをわかりやすく説明を受けた後、コーンタッチゲーム、キーパーの段階的指導の後、ルールの説明後、ゲームを力いっぱい行った。充実した時間であった。



講師…筑波大学助教  
山田 永子先生

中・高等学校兼特別支援学校対象の部

日時…8月6日(火)

会場…東京都立千早高等学校  
校 武道場、体育館他

柔道講師…灰原菜美先生(講道館道場管理室指導員) 高嶋康隆さん(東京農業大学柔道部4年)

バレーボール講師…関毅彦先生(千葉科学大学学園東京事務所東日本地区広報室参与東京支局長)

講習会の趣旨は、全国の特別支援学校・中学校・高等学校保健体育指導者が、指導技術の向上を図るとともに、資質の向上と指導の充実・発展を目指すこととした。

午前中は「武道・柔道」の講習会をおこなった。内容は、礼儀作法の意味や受身、投げ技、固め技などについての技術指導等であった。そのポイントは、指導者の経験等を基にした「教え込み」による指導ではなく、「生徒たち自身に考えさせる」指導を行うことが重要で、指導の結果楽しく安

全に生徒が柔道に親しむことができようになることを学んだ。とくに「安全の確保、ケガの予防」について生徒自身が意識することができるといふように工夫されていた。具体的には、寝技のゲームを行うときに、多くの場合2人組をつくらせるが、あえて3人組をつくらせて余る1人に安全(場所も含めた)の確保と審判の役割を与える。それによって、自然に生徒たちが「安全」に対して意識できるようになっていた。また審判を行うと客観的に人の動きを見ることができるといふことが、こうすれば押さえ込むことができるといった状況を理解でき、審判をしている生徒自身の学習にもなっていた。



午後は「球技・バレーボール」の講習会を行った。前半はコーディネーショントレーニングの理論に関する講義とその利用方法などを学んだ。特にリトミック的要素である「右手と左手での異なる動作」を行うことは難しいが、練習によってできるようになることを体験を通じて学んだ。後半は実際の実技としてコーディネーショントレーニングを使った準備運動をはじめとして、ボールを使った各種技能の指導について学んだ。キーワードは「点」「線」「面」であり、「点」の状態が最も易しい技能で「面」が最も難しい技能となる。生徒に指導する際に、「面」の状態で失敗するなら「線」で成功を目指す、それもだめなら「点」の状態で成功させる、といったように失敗するケースは課題の段階を下げて成功させてから、次のステップに進ませることが重要であることを学んだ。また運動の苦手な初心者がどのような動きをする可能性があるか、それによりどのようなケガをする可能性



があるか、などを含めた「安全に関する指導」についても講習全体を通じて学んだ。